



平成25年11月8日

各 位

上場会社名 JTトラスト株式会社
代表者 代表取締役社長 藤澤 信義
(コード番号 8508)
問合せ先責任者 取締役 常陸 泰司
(TEL 03-4330-9100)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成25年5月14日に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成26年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	31,576	3,065	3,182	2,594	30.07
今回修正予想(B)	28,845	2,232	1,661	1,144	13.38
増減額(B-A)	△2,731	△833	△1,520	△1,450	
増減率(%)	△8.7	△27.2	△47.8	△55.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成25年3月期第2四半期)	24,457	7,490	7,483	7,445	120.50

平成26年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	72,620	16,103	17,319	15,030	149.36
今回修正予想(B)	—	—	—	—	—
増減額(B-A)	—	—	—	—	
増減率(%)	—	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	55,683	12,005	13,704	13,309	214.44

平成26年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,166	702	734	731	8.48
今回修正予想(B)	3,234	1,858	782	761	8.91
増減額(B-A)	68	1,156	47	29	
増減率(%)	2.2	164.6	6.5	4.1	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成25年3月期第2四半期)	1,262	4	26	3	0.05

平成26年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,082	1,675	1,725	1,719	17.08
今回修正予想(B)	—	—	—	—	—
増減額(B-A)	—	—	—	—	
増減率(%)	—	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	3,546	1,029	1,073	1,056	17.02

(注)1. 当社は、平成24年6月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。1株当たり当期純利益につきましては、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算定しております。

(注)2. 平成25年8月2日付で公表しております「ライツ・オフアリング(ノンコミットメント型/上場型新株予約権の無償割当て)による新株予約権の権利行使結果(確定)に関するお知らせ」のとおり、ライツ・オフアリングにより発行済株式数が増加しているため、前回発表予想の1株当たり四半期純利益及び1株当たり当期純利益を修正しております。

修正の理由

1. 平成26年3月期第2四半期累計期間の業績予想数値の修正について

(1)連結業績予想数値の修正について

第2四半期(累計)連結業績につきましては、信用保証残高は増加している一方で消費者向貸付業務、クレジットカード業務ともに、融資残高が期初想定を下回っていることや、親愛貯蓄銀行株式会社(以下、「親愛貯蓄銀行」といいます。)において、個人回生/信用回復手続(個人における民事再生手続や債務整理手続)や債権の延滞が想定を上回って増加したことに伴う貸倒費用の増加等の要因により、営業収益、営業利益、経常利益、四半期純利益とも、前回予想を下回る見込みとなりました。

(2)個別業績予想数値の修正について

第2四半期(累計)個別業績につきましてはほぼ計画通り推移しております。

当社グループでは、平成25年5月14日付公表の「ライツ・オフアリング(ノンコミットメント型/上場型新株予約権の無償割当て)に関するお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、第2四半期累計期間においてライツ・オフアリングによる資金調達を実施しており、当該資金調達に係る費用約11億円を株式交付費として、一括して営業外費用に計上したことにより、営業利益は前回予想を上回る結果となっております。営業収益、経常利益、四半期純利益はほぼ計画通りとなる見込みです。

2. 平成26年3月期通期業績予想数値について

当社グループでは、上述のライツ・オフアリングにより調達した資金(払込総額 約976億円)を当社グループにおける今後の債権買取り及びM&A等の資金等に充当していくことにより業績の向上を見込んでおります。

現在、積極的にM&A等に取り組んでおりますが、ライツ・オフアリングの終了後の8月以降から本格的に開始したため、未だ、そのタイミング等につき、多分に不確実性を含んでいること、また、案件によっては、その規模が大きいために、当該案件の成否に当社グループの業績が大きく左右される可能性が生じているなど不確実な状況にあります。

また、当社グループでは、連結財務諸表の作成にあたり、親愛貯蓄銀行などの新規に連結子会社となった会社等については、それまでの当該連結子会社の決算日を基礎とするともに、当該会社が海外に所在する場合にあっては、貸倒引当金の計上等について現地の会計原則に従うこととして連結財務諸表を作成するなど、適時の決算開示に影響が生じないようしておりますが、平成26年3月期通期決算に向けて、当該連結子会社等におきましても、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用した作成方法に変更し、また、貸倒引当金の計上方法についても当社グループとしての基準に統一するべく適時開示業務にかかる体制整備を進めているところであります。

平成26年3月期の通期業績予想につきましては、様々な施策による業績の向上を見込んでおりますが、上述の通り不確定要素が大きい現時点では、合理的な業績予想の算定が困難であることから、平成26年3月期の通期業績予想(連結・個別)の開示は見送らせていただきます。

今後、業績予想の開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※本資料に掲載されている将来に関する記述は、当社及び当社グループが発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。よって、実際の業績は様々な要因につき、記述されている業績予想とは大きく異なる結果となりえることをご承知ください。

以 上